

7、峴神社

〔社名〕

ミネノヤシロ、「雲陽誌」には楯縫郡万田の項に「八王子」くにさづちの国狭槌尊なり、社四尺四方南向とし、前出の「風土記考證」には「ミネノヤシロ」と傍訓して、「万田村山峠の八王子大明神か」とし、「風土記参究」でも「みねのやしろは、万田の字峠にある峴神社で、もと八王子大明神と呼ばれた」とある。

〔所在〕

平田市万田町一三三三番地に鎮座する。

平田市駅下車バスで十五分県道十六島線宮の前下車。

〔祭神〕大物主神、国狭槌神、大山津見神。

なぜ八王子と呼ぶのかというと、天照大神がスサノオノ尊と誓約し給いし時、生りませる神が五男三女神であって、それを八王子と言った。こういうようになったのは、仏教で牛頭天王が薩迦施を娶りて八王寺を生むとあるので、それを習合したものである。

大物主神は、「偉大な精霊の主」の意で、奈良県の大神社の御祭神で、その神は全国で祀られている。大国主命の和魂である。

国狭槌神は、天地創世神話に出てくる国常立尊に次ぐ第二神、サは早で初めて生じたの意、ツは連体格助詞、チは精霊。

大山津見神は、ミは神霊の意で、チ（精霊）よりも神格が高い。

記ではアシナズチ・テナズチの親神として「国つ神」と呼ばれて



イザナギ、イザナミ二柱の御子神で、  
いる。

〔由緒〕

創立年代不詳。「出雲国風土記」に記載されているから、相当古くから信仰されていたことはたしかである。

曾ては社殿も小さく、周りも狭かったので増宮に力をいれ、本殿を改築することに成り、山をけずり整地にとりかかった時、工事に従事していた氏子の一人が大声をあげたので一同何ごとかと聞いたら「白骨死体が石棺の中におお向けになって出てきたと言ったので大騒ぎとなった。早速、県の方へ連絡したところ検視があった。しかし非常に古いことなので何も解らなかつた。古老の話では、昔、今の万田峠と小津浦の中間に「切ったが谷」というところがあるが、そこで人が切られ、この山に埋められたもののだそうである。石棺の長さ約二十メートル、巾八十センチメートル位の石のふたつきで、なかには朱塗り刀一振があり、片手はなかったと伝えられている。現在発掘された場所の周りは石垣をめぐらし、上には天然石の高い塔が建てられ、毎年夏にはお骨さんの祭りが行われる。